

豊四季訪問看護ステーション サテライト我孫子わかくさです☆



- 2022年度法人の看護介護活動交流集会に参加しました！
- 各事業所の実践を学びあい、発展・継承することを目的とし、毎年行っている集会です。
- 当ステーションでは、約30年ALSを患い10年以上訪問看護、訪問リハビリを行っているA氏の事例を報告しましたのでご紹介します。



- 当ステーションでは看護師9名と理学療法士2名のスタッフが在籍しています。利用者100名程のうち訪問リハビリ利用者は30名で、増加傾向です。
 - 利用者様は50代 男性 キーパーソンは80代後半のお母様です。介護はほとんどお母様のみでされています。
 - 看護とリハビリで訪問しており、週に各1回ずつストレッチ、関節可動域訓練、移動介助を行っています。
- 発語は不明瞭であり、一度では聞き取れず時間がかかります。

介助者が左腋窩を支え、すり足で1歩1歩時間をかけて
1.5～2m歩行移動。



- ご本人の気持ちとして日常生活動作はリハビリを兼ねているので時間がかかっても自分でやりたい！！というお気持ちです。
- しかし、病状進行に伴い以前から行ってきた歩行移動が難しくなり、お母様の介助時に崩れ落ちることもありました。そこで、キャスター付きの椅子をベッドサイドに置き、歩行せずに移動する方法へ変更することをA氏に提案しました。「転んでも自分の責任。今まで通りお願いしたい」「動いていることで進行を遅らせているのでできることはやっていきたい」と納得されませんでした。
- 看護師やヘルパーは足が前にでずバランスをとるのが難しい歩行介助に転倒の危険を感じていました。看護と理学療法士が時間をかけ「多職種ケアチームが安全にケアを統一したい」という点で説明し、移動方法の変更を納得して頂きました。
- 看護職とリハビリ職は視点が違う強みをいかして連携し、共通認識でケアすること、利用者様の気持ちに寄り添いながらケアチームをつなぐことが大切だと実感した実践です。今後もいっそうA氏がA氏らしく生活していけるよう支援していきたいと思います。

